

早春のつどい、なごやかに

2月14日、九条の会さかどの「早春のつどい」を坂戸駅前集会施設で開催し、20余名が参加しました。

最初に運営委員の石川裕一さんが開会のあいさつとして、安倍首相が明文改憲に意欲を示し、憲法に緊急事態条項を新設しようとしていること、南スーダンに自衛隊が行くことで殺し殺される事態に



なるのではないかと、九条の会さかどの活動にプラスαが必要ではないかなど問題提起を行ないました。

その後、会食しながら参加した全員が、それぞれの思いを語り合いました。感想は次号で報告します。

日本軍「慰安婦」とされた女性たち(5)

講演 梁澄子・記録 熊田洋子

宋さん語録から

「人の心の一寸先は闇だから、人の心が信じられずに生きてきたんだよね。だまされてばかりいたからさ。でも裁判かけて体験を話してから、ちつとは安心した。オレも少しは人間らしくなったよ。すっかり垢抜けたババアになっちゃった」

裁判を始めてから5年目、初めてカメラを向けた日の言葉です。

人の心を信じられず5年間やってきたのだけれど、どうも信じてよさそうな人がいるなという頃で、「支える会を一番信用している」とも言っています。

私が一番悲しいと思うのは「少しは人間らしくなった」というくだりです。正直なところ宋さんに初めて会った頃は、獰猛な獣に会っているような感覚がありました。宋さん自身が、自分が人間らしくなったと思うということは、つまり被害回復によって、それまでの自分がいかに人間らしくない暮らしをしてきたかということに気づき始めたということです。それが裁判を始めて5年目頃だったのです。

「繰り返ししゃべったって、元のように戻らない。だけど分かってくれる人は分かってくれるからさ」

証言集会の前夜は、信用されなかったらどうしようと思えないそうです。しかし宋さんの話を受け止め理解してくれる人がいるということ、何度も何度も確認する、その繰り返しで被害回復ができてきたのです。

「オレは第一戦の弾の中から生きてきた人間だから、おっかないことなんて何もないよ。お前らが支える会を始めて、中途半端に疲れたからやめるとか言わない度胸があるのなら続けるし、やめたけりゃやめろ。これはお前たちの問題だ」

これは国民基金の話が出た頃に、宋さんが「お前らはどう思うんだ？」というので、「これは宋さんが考えて決めなくてはならないことだから…」と、宋さんに決断を委ねたときに突き返された言葉です。

私たちとしては、自分の意志を尊重されたことがない宋さんに何でも決めてもらいたかったのですが、騙され続けてきた自分に対しても信頼が持てないのに、「宋さんが決めなければダメなのよ」と言われることが辛かったということに、この言葉で気付いたのです。

また私たちは「宋さんが決めて！」と言うことで逃げていたのだとも知らされました。一緒に悩んで一緒に決める、そして支援者として責任を取るという、運動する者としての姿勢を正された言葉でした。

「これから生きる子供たちのためにも…戦争は絶対やっちゃいけない。オレの口から言っても、あんたたちの口からも言って。…戦争をしないのは国のためじゃなく自分のためなんだから」

戦争のことはオレしかわからないから、オレが言うしかないという考え方だったのに、託すようになってきました。

【注】 1995年に発足したアジア女性基金(国民基金)は、当初国民からの募金で韓国、台湾、フィリピンの被害者たちに200万ずつという計画でしたが、後に首相の謝罪文を付けるとか、医療費に関しては国から出すというふうに変わっていきました。

オランダ人被害者については国庫から首相の手紙と一緒に補償金が直接渡されているので、それをもって国家賠償をしたとみてもよいのではないかと思います。

複雑性PTSD

普通の人が普通に生きているだけでは経験しないことを体験したことで何年後までも発症する後遺症をPTSDといいます。その診断基準では、宋さんの言動を理解することができずにいました。ところがアメ

発見！市民活動フェア

九条の会さかどもブースを出します！

日時 3月12日(土)10時～15時(途中からでも途中まででもご参加を)

会場 入西地域交流センター(九条の会さかどは2階です)

坂戸市民や坂戸で市民活動・ボランティア活動をしている活発な皆さんと交流できます。市のイベントで9条を語りあえる、貴重な機会にご参加を！

リカ（精神医学者）ジュディス・L・ハーマンの『心的外傷と回復』（みすず書房、1996年刊）に、大震災やオーム事件のような一過性の衝撃的な被害ではなく、長期に渡って監禁され繰り返し害を被った場合、複雑性PTSDという診断基準を設けるべきだと書いてあったのです。まさに宋さんと一致しました。

また、普通に生きていたら経験しえないようなことを経験した人が心身に負う傷というのは、私たちのように一般的な経験しかしていない人がいくら想像しても、結局は「分からない」ということが分かりました。それが第一歩で、分かろうとすることが支援運動だと分かったのです。

解決に向けて

人種問題や女性問題、あらゆる差別問題は、人権を蹂躪されている被害者が訴えて初めて解決に向けて少しずつ進んでいくものです。日本だけが責められているとよく言われますが、責任を問うべき対象ははっきりしているからです。仏、英、独などは植民地に強制売春制度を持っていましたが、19世紀の話なので、被害者が訴えるということはありません。また第二次世界大戦時に国家が慰安所というようなものを持っていた国は日本とドイツだけと言われていますが、ドイツの記憶責任未来財団関係者の話では、被害者が名乗り出ていないので実態がよく分かっていないそうです。

1990年代以降、被害者たちが日本政府に謝罪と賠償、被害回復を求めて運動を起こしました。むろんどの国でも戦争中に女性への性暴力がいろんな形で起きています。しかし戦時性暴力問題に関して被害者が訴えているのは、唯一この問題だけです。被害規模や人数の問題ではなく、たった一人でも国家に責任があるならば補償するべきです。

日本軍慰安婦制度についての責任者処罰は今からでは無理なので掲げていませんが、ユーゴ紛争で処罰されているように、今後の歯止めにするためには、現在も起きている戦時下性暴力を裁く際に責任者を処罰するということがとても大事だと思います。

日本の名誉を大切に思うのであれば、責任を取ること、歴史上戦時性暴力に責任を取った最初の国として世界から本当の意味で尊敬される国になるでしょう。そのチャンスが与えられているとも言えます。（終）

（講演は <https://youtu.be/Oe5umvUkmc> で公開しています）

戦跡・戦災の保存展示を

西坂戸 大山 茂

あの悲惨な第2次世界大戦で、日本は侵略戦争を押し進め、アジア全体では2千万人の命を奪い、日本国民は310万人が命を失いました。侵略戦争を進めた痛苦の反省から憲法9条が生み出され、日本は戦争をしない国として世界中からの注目を受けています。

終戦から70年を迎えた坂戸市議会で、「戦後70年にあたり本市の戦跡・戦災の保存展示」について質問しました。

坂戸市は、1986年（昭和61年）に「平和都市宣言」を行なっています。清らかな水の流れ、あふれる緑、豊かさと安らぎに満ちた平和な暮らしは坂戸市民誰しもの願いです。戦争の記憶はしっかりとどめておくことが未来永劫の平和のために大切なことです。

坂戸市には旧陸軍坂戸飛行場など数多くの戦跡があります。1940年（昭和15年）、陸軍少佐と憲兵がやってきて、千代田や関間などの地権者に命令し、翌日のうちに承諾書に署名・捺印をさせられたと、市が発行した「戦後50周年記念誌」に記載されています。

終戦直後、坂戸を進駐軍の基地にしようという動きがありましたが、住民が反対して断念させました。広大な飛行場跡地は、現在、市役所や学校などの公共施設、幾つかの工場、閑静な住宅地となっていますが、そこにある桜並木は、当時の坂戸町観光協会が平和なまちづくりの象徴として1万本の桜の苗木を植樹したものです。

この飛行場の他にも、アメリカ本土を攻撃するための「飛船爆弾」を坂戸の中心部で作っていました。こういった戦争遺跡、戦争の傷跡・爪痕は枚挙にいとまがありません。

平和都市宣言をしている坂戸市にふさわしい、戦後70年にあたっての戦跡・戦災の保存・展示を行政としてどう取り組むか質問しましたが、「歴史民俗資料館では、市民の方からの寄贈による軍服、防空頭巾など約40点と写真を収蔵しており、今後においても市民の方から寄贈があつたら受け入れを行ない、収蔵及び保管に努めていく」との答弁に留まりました。

神奈川県愛川町では資料館に飛行場跡地についてのコーナーがあり、本市でもそのような工夫をすべきではと再度質しました。

坂戸市は、今年「市政40周年」を迎えます。この機会に戦跡についての案内板を設けるよう求めたいと思います。

『日本と原発 4年後』上映会に220人

1月24日（日）午後2時から、坂戸市入西地域交流センターで『日本と原発 4年後』の上映会が開催されました。厳しい寒風の中でしたが入西地域の住民を中心に220の方がおいでくださいました。

実行委員会の中心は「郡山の子どもたちと遊ぶ会」の事務局メンバーです。上映に先立ち、花田勝夫共同代表（北大塚在住）が、これまでの活動と映画上映に至った経緯を説明し、「みんなで、先入観を持たずに原発と放射能のことを学習しましょう」と呼びかけました。

前作『日本と原発』に、原発事故直後の発電所と本部・政府とのやり取り、今も続く被災地の苦しみ、大飯原発訴訟の判決、川内原発の再稼働、原発推進論者、脱原発論者へのインタビューなどが付け加えられた本作品の上映時間は2時間18分。やや長時間で、また極めて深刻な内容の映画でしたが、多くの方が集中してご覧になっていました。

坂戸市、坂戸市教育委員会の後援、入西地域交流センターでの上映など、憲法に謳われている集会や表現の自由を、具体的に保障する坂戸市を、評価したいと思います。（事務局 武井 誠）

今後の運営委員会（会員なら誰でも参加できます）

3月24日（木）、4月28日（木）、5月26日（木）10時～12時
北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室（溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印）